

令和5年度 自己評価報告書

令和6年4月
岐阜県立衛生専門学校

1 本校の教育理念

資料1

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

2 令和5年度組織（所属）目標及び目標項目、目標値と実績

1) 質の高い教育と教職員の育成

資料10～11、17～19

(1) 教育方法の発展

①研究授業の実施

・看護系学科では新カリキュラム運用に合わせて授業研究を行った。歯科系学科では情報共有やスキル向上を目的とした授業研究を行った。

②学科を超えた授業参観の実施（1回以上/年）

・学科を超えた授業参観や合同授業を4学科が実施できた。

(2) キャリアラダー

①研修の受講

・全教員が自己のキャリア別目標の達成を意識した研修計画を立案し、受講できた。オンライン研修が中心であったが、各自概ね計画通りに受講し、適宜科内で研修報告も行った。

(3) 研究能力の向上

①研究授業や教材研究の成果の発表（職場研修、学会等）

・昨年度研究発表したものについて、専門雑誌への掲載を行うことができた。

2) 入学生確保の推進

資料8、9

(1) 令和6年度志願者数（ ）はR5年度

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| ・助産学科 | 目標：40名 | 実績：54名（40名） |
| ・第一看護学科 | 目標：100名 | 実績：81名（100名） |
| ・第二看護学科 | 目標：60名 | 実績：36名（36名） |
| ・歯科技工学科 | 目標：20名 | 実績：11名（6名） |
| ・歯科衛生学科 | 目標：30名 | 実績：44名（28名） |

※過去5年間の数値から近年の傾向を鑑み、学科ごとで基準を設定（歯科技工学科、歯科衛生学科は定員数）

(2) 令和6年度入学者数（ ）はR5年度

- | | | |
|---------|--------------|-------------|
| ・助産学科 | 目標：16名以上（8割） | 実績：14名（11名） |
| ・第一看護学科 | 目標：40名以上 | 実績：35名（38名） |
| ・第二看護学科 | 目標：40名以上 | 実績：27名（25名） |
| ・歯科技工学科 | 目標：16名以上（8割） | 実績：10名（6名） |
| ・歯科衛生学科 | 目標：24名以上（8割） | 実績：24名（18名） |

- ① 高等学校訪問・・・・・・・・・・歯科系学科が高校24校へ訪問した。さらに、県内の高校69校、看護系大学・専門学校25校、計94校へ募集要項や学校説明会開催案内送付した。

- ② 准看護師養成所訪問・・・・・・・・・・ 6校に訪問
- ③ オープンキャンパス・・・・・・・・・・ 今年度は3年ぶりに開催した。
 助産学科：53名参加
 第一看護学科：131名参加
 第二看護学科：63名参加
 歯科技工学科：8名参加
 歯科衛生学科：54名参加
- ④ 学校説明会・・・・・・・・・・ 助産学科1回（オンライン）：5名参加
 歯科技工学科2回：11組
 歯科衛生学科2回：22組
- ⑤ 進路説明会・・・・・・・・・・ 46件依頼があったうち27件参加
- ⑥ 出身校への手紙・・・・・・・・・・ 助産学科、第二看護学科が卒業生に送付した。
- ⑦ 入学生アンケートの実施・・・・・・・・ 入学生全員（休学者除く）に依頼（全員回答）

3) 防犯・防災に係る危機管理体制の整備

資料 2 1

(1) 危機管理体制整備

①防災訓練の計画立案と実践

- ・3年ぶりに、火災や地震を想定した消防訓練と避難訓練を実施した。

②防犯、防災備品等の予算化

- ・防犯、防災備品等については、保管状況を点検し、不足や更新分を予算要求している。

(2) 備蓄食材の整備

①職員、学生共に必要物品の整備

- ・職員・学生の飲料水は整備できた。簡易トイレについても確保できた。
- ・学生の備蓄については、災害時は学校に留めることなく移動等の安全が確認できしだい帰宅させることを想定して必要量を再検討し、各自で1食分を準備させることとした。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校経営

資料 1～8

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表しているか。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。 	4. 7

○評価点：5 よい 4 ややよい 3 普通 2 やや不十分 1 不十分

- ・年度初めに中期目標（令和4年～令和7年）に基づき、令和5年度の組織目標、目標値を策定し、全職員にメール配信により周知した。また、職員会議、学科会議でもその内容を確認した。
- ・職員による学校評価を9月と12月に実施し、学校のビジョンや組織目標等の学校経営方針は、全職員が理解していることを確認できた。また、中間評価結果についても共有し、後期の学校運営に反映させた。また、学生による学校評価を1月に実施した。

- ・学校関係者評価委員会は、第1回は9月に開催し、令和4年度学校評価結果を報告し、委員から多くの意見をいただいた。意見はとりまとめ、改善・対応策とともに第2回学校関係者評価委員会（10月書面会議）で報告し、今後の教育活動、学校運営に繋げるようにした。

○課題

学校関係者評価の時期を少し早めに計画したが、新型コロナウイルス感染拡大により開催時期が例年と同様となった。そのため、外部の意見が後期以降にしか反映できなかった。

○改善策

- ・学校関係者評価委員会の開催時期を早め、上半期中には学校運営に反映できるようにする。

2) 学科運営

資料10～11、19

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。 	<p>4. 2</p>

- ・各学科、科目ごとの授業評価を実施し、その分析結果を次年度の教育課程に繋げることができた。
- ・卒業年度の学生を対象に、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく学習内容や到達状況、方法等に関するアンケートを実施し、卒業時の学生の到達状況の把握やカリキュラム評価を行うことができた。
- ・助産学科では、新カリキュラム運用開始後2年目となった。目標到達を実感できる方法で進められるよう、科目の重なりなど調整を図った。臨床判断に関する科目を、実習前と実習後に計画し、実習での学びを活かした演習をグループで行ったことで理解が深まった。
- ・第一看護学科でも新カリキュラムの運用開始後2年目となった。新科目については、授業研究を行い、グループごとに科目の目標、授業内容、方法等を検討し、それを活用しながら考えることで、科目の意図や目的を理解し一貫性のある講義を実施できた。また、昨年度実施した実習については課題を検討した上で、実習方法や記録を一部見直し改善することができた。
- ・第二看護学科では、新カリキュラムの運用が開始した。旧カリキュラムで課題となっていた過密スケジュールを緩和できた。課題の重複や時間外での技術演習時間の確保などについて改善できた。カリキュラムの評価については、「卒業アンケート」「授業アンケート」「実習アンケート」を

検討し案を作成した。「実習アンケート」は今年度運用を開始した。次年度はその他のアンケートも logo フォームでの運用を開始し、カリキュラム評価へ活かす予定である。

- ・歯科技工学科では、関連する科目をつないで段階的な学習とするために外部講師との意見交換会の内容を踏まえて、学習内容・方法の改善に取り組んだ。また、昨年度実施した、歯科診療所の施設見学を引き続き実施し、学生の学びや報告会の結果から、診療環境の理解やコ・デンタルスタッフとしての意識付けなど施設見学の有効性が確認できた。
- ・歯科衛生学科では、看護系学科との連携授業や他校と合同で授業内容や方法の検討を行うなど、授業内容の改善に向けて積極的に取り組むことができた。また、今年度初めて実習指導者に授業参観をしてもらい、学校での教育内容を踏まえた学生指導につなげるための取り組みを行った。
- ・学生から要望の多い時間割の早期配布については、1か月以上前の配布に努めたが、外部講師等との日程調整に時間を要し、すべての学科で目標達成には至らなかった。引き続き、外部講師との日程調整を行い、できる限り早期に配布する。
- ・学生による授業評価は、すべての学科が取り組んでおり、学生から得た評価や具体的な意見を参考に各自見直しを図ることができた。また、学科で検討が必要な意見については、検討し改善に努めた。
- ・臨地実習については、昨年度より感染拡大傾向による影響は少なくなり、概ね学習目標の到達はできた。しかしながら、施設による感染拡大防止措置により、これまで経験できたことが見学実習となったものもあった。

○課題

- ・学生が求める時間割の早期配布に対応できていない学科がある。
- ・看護学科の新カリキュラムによる運用は、今年度で一通り実施となるため、カリキュラム評価が必要である。
- ・臨地実習の期間や方法に制約を受けると、卒業時の技術到達度が不足する懸念がある。

○改善策

- ・時間割を1か月以上前に配布できるように意識して作成する。
- ・新カリキュラムによる卒業の目標到達度を評価し、見直しが必要であれば検討する。
- ・感染症拡大等で実習に制約を受けた場合でも、目標到達できるような教育方法や教材の工夫等の代替策を平時より考えておく。

3) 入学・卒業対策

資料8～9、12、22

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生への支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。 	4.3

- ・人材確保・就業対策部会において、年間計画を立案し活動を行った。
- ・入学生確保の結果については、歯科衛生学科が目標値を上回ったが、助産学科、第一看護学科、第二看護学科、歯科技工学科は目標値を下回った。志願者数については、助産学科、歯科衛生学科が目標値を上回った。目標値については、昨年度までの目標値を見直し、全体的に高い目標値としたが、2学科で目標値を上回ったことは、様々な学生確保のための取り組みの効果によるも

のと考える。しかし、すべての学科で定員数には及んでいないため学生確保が困難な状況は続いている。

- ・学生募集については、学校訪問・オープンキャンパスが再開となり、感染拡大状況を見ながら、進路説明会への参加、准看護師養成所への訪問、学科ごとの学校説明会（オンライン含む）を実施した。また、県の事業に参加し、FC岐阜の試合中にCMとして本校のPR動画を流すという取り組みができた。
- ・県内就業率は、助産学科が67%、第一看護学科が96%、第二看護学科では94%、歯科技工学科は83%、歯科衛生学科は85%であった。助産学科以外は、概ね8割以上が県内就業であることから一定の目標到達はできたと言える。どの学科においても地元で就業する学生が大半であるため、県外からの入学生が多い助産学科では7割未満と他学科と比較して県内就業率が低くなっている。
- ・卒業生交流会は今年度全学科で実施した。令和3年度及び4年度の卒業生185名を対象に案内をしたが、参加者は20名と少なかった。例年参加率が低いため、今後の開催は見合わせ、個別で来校しやすい環境づくりを検討する。

○課題

- ・志願者数は2学科、入学者数は1学科で目標値を上回ったが、それ以外の学科では目標値を下回る状況が続き、定員数の確保はできていない。

○改善策

- ・引き続き、学生確保の活動を積極的に行っていく。18歳人口の減少は益々進んでいくと思われるため、対象は現役生のみならず、社会人等で各医療職を目指したい人を幅広く確保するための対策を検討する。
- ・人材確保・就業対策部会の活動を継続し、ホームページの充実や広報活動を積極的に行っていく。

4) 学生生活への支援

資料7、13～16、20～21

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。 	3.7

- ・各学科、学生支援体制をつくり、定期的に面談や指導等を行い、教員間で情報共有を行った。特に支援が必要な学生については、定期外にも面談を実施し、必要時、スクールカウンセラーや家族・関係者と連携を図り、きめ細かな対応を行った。また、学生からの意見についても、教員間で話し合い、改善できることは改善に努めた。
- ・心身の不安定な学生には、こころの相談室、専門医の受診を勧めた。こころの相談室の利用者は延べ13名（相談者8名）で昨年と比較し増加した。今年度は昨年度からの課題であった申し込み方法を、教員を介さずボックスを利用する方法に変更した。相談者が増加した理由として、この申し込み方法の変更により、気兼ねなく利用できるようになったことが考えられる。また、利用者の大半は1年生であった。新たな環境での様々な不安や悩みを相談することができたと考えられる。
- ・学校医については、健康診断の結果、学生の疾病に関する相談などで助言を得ることができた。
- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策としては、感染症法の分類が5類に変更されてからは対応

も変更した。しかし、感染が終息したわけではなく、実習施設においては引き続き厳しい感染対策が求められていることから、基本的な感染予防対策は継続して行った。学生、職員に罹患者はあったが、学内や実習施設等での感染拡大はなく、学習に大きな影響を与えることはなかった。

○課題

- ・様々な問題や課題を抱える学生は増えてきており、こころの相談室の利用者も増えていることから、教員にも様々な対応が求められる。

○改善策

- ・カウンセラーと密に連携を図り、学生の情報を共有しながら対応を行う。また、教員の不安についてもカウンセラーに相談できるよう調整する。

5) 教職員の育成

資料17～19

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。 	3.8

- ・年度初めの業績目標立案時に、キャリア別到達目標を意識して研修（県の職員研修、教育に関する研修）を計画した。多くはオンラインを利用したセミナー受講となったが、各自が目標達成に向けて取り組んだ。また、自己のキャリア形成の確認のために、人事評価時（9月、1月）には、自己評価と教務主任による面談と評価を実施した。
- ・臨床実践能力の維持のための実務研修については、今年度は領域変更による該当者がおらず臨床研修の実施はなかった。しかし、教育現場が長くなった教員も複数名いるため、領域変更に関わらず、実務研修に参加できるよう研修受講を計画的に進める必要がある。
- ・教員の研究能力向上では、今年度は研究の実施までには至らなかった。各学科で授業参観や授業研究を行うことはできたため、後はこれらを発展させることができるよう準備していけるとよい。

○課題

- ・授業参観がすべての学科では実施できていない。
- ・研究が実施できていない。

○改善策

- ・研究授業、授業参観を積極的に実施するための計画を立案する。
- ・各学科、授業参観のまとめや検討等から取り組み、研究に慣れる環境づくりから進めていく。

6) 管理運営・財政

資料13、20～21

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。 	4.2

- ・3年ぶりに火災や地震を想定した避難訓練を実施した。また、校外へ避難する方法により、避難場所や経路の確認もできた。
- ・昨年度、職員・学生の飲料水は整備、簡易トイレは確保できた。適宜更新していく。
- ・学生の備蓄については、必要量を再検討し、各自で1食分を準備させることとした。
- ・ハラスメント防止対策については、「ガイドライン」「方針」などの取り決めが複数あり、一部内容が異なる点もあったため、県立3校で調整し見直しをした。教職員及び学生に十分周知していく。
- ・学生の意見や要望（新入生と語る会、学生生活実態調査等）を受け、使用機器の点検、破損・修繕等、可能な範囲で速やかに対応した。また、学業における要望についても、各学科で対応を検討し、学生に説明した。

○課題

- ・設備や備品整備については、予算内で計画的に進めているが、すべてに対応できない。
- ・災害に関する対策はとれているが、防犯に関する対策に不足がある。

○改善策

- ・予算内でどのような整備ができるか職員に周知し、優先度を考えて整備をする。また、数年先を見越して予算案を立てていく。
- ・防犯設備の点検や整備を行う。また、防犯に関する学習会などを計画する。

7) 施設設備

資料2 1

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。 	3. 6

- ・5か年計画に基づき、備品整備等に取り組んでいる。今年度は、C P S 実習ユニット、図書管理システム、吸引娩出器、分娩介助トレーニングモデル、分娩介助シミュレーター、新生児心肺蘇生法訓練モデル、タブレット型コンピューターを更新した。また、排水管、防火シャッター、ブラインド、照明、ノートパソコン等の故障等について修繕を行ったが、予算の関係上、優先的に高いものから行った。
- ・I C T 機器の利用拡大のため、委員会を中心に課題解決に向けて取り組んだ。また、昨年度からデジタル戦略推進課の協力により、ロゴフォームの活用や教育支援システム導入に向けて検討を重ね、ロゴフォームについては各学科で使用を開始した。次年度は、さらに広くロゴフォームを取り入れ、学生の利便性を向上させていくとともに、教員の業務負担の軽減につなげたい。
- ・図書室の活用促進については、今年度10月からシステム導入による運用が開始され、図書管理の利便性は向上した。しかし、貸出数は昨年度より減少しており、貸出期間・冊数上限が一般の図書館より少ないことも利用が増えない一因と考える。今年度、紛失図書なし。

○課題

- ・施設設備および教材備品等の老朽化や不足がある。
- ・ICT機器の利用について、ニーズは高いが準備が間に合っていない。
- ・図書室の利用減少

○改善策

- ・施設設備については、計画的に建物等の改修や備品の更新を行っている。今後も5か年計画に基づき改善に取り組む。また、当初の計画以外のもので、必要であれば計画を見直し優先度の高い教材、教具の購入を進める。
- ・ICT機器については、各学科で具体的に整備の必要な備品等の計画を立て、予算担当者と調整を図り、優先度の高いものから整備していく。
- ・新着図書の案内方法を検討し、図書室の利用促進を図る。

8) 社会貢献、地域活動

資料9

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。 	3.8

- ・今年度は、県の事業により、本校のPR動画を作成しFC岐阜の試合中にCMとして流すことができた。
- ・学校や職業のPRのために、助産学科は、小学校4年生を対象に「いのちの授業」を行った。また、第一看護学科は、業者の進路ガイダンスを通じて高校で2・3年生を対象に母性看護学の授業を行った。歯科衛生学科は、近隣中学校で1～3年生を対象に、歯科衛生士の職種について出前授業を実施した。
- ・実習施設である医療機関より、災害訓練時のボランティアへの依頼があり、第一看護学科及び第二看護学科の学生30名が患者役として参加した。また、隣接する児童センターより学生による母子保健活動に関する依頼があり、歯科衛生学科の3年生全員が「親子歯磨き教室」を実施した。
- ・出前授業やボランティアを通して近隣施設との連携を積極的に図る等、地域に根づいた学校づくりを意識して取り組んでいる。

○課題

- ・可能な範囲で様々な広報活動に取り組んでいるが、認知度拡大による効果が明確でない。
- ・日常的にボランティア活動に取り組むことが困難である。

○改善策

- ・学校の認知度アップや本校の魅力を発信するために、引き続き様々な方法を検討し実施する。
- ・ボランティアの募集があれば案内する。また、学生自治会へも学生の自主的な活動等の働きかけを行う。

4 組織目標や計画の総合的な評価結果

令和5年度の組織目標や学校運営計画における各評価項目の達成状況については、「1 学校経営」「5 教職員の育成」「6 管理運営・財政」「7 施設整備」「8 広報・社会貢献・地域活動」

において評価点が昨年度を上回り、「2 学科運営」「4 学生生活への支援」は同じ、「3 入学・卒業対策」は昨年度を下回る結果となった。評価点は、4 項目で4.0以上、その他4項目が3.5以上であり、目標は概ね達成できた。